

## 首都圏直下で過去400年間に発生した地震と月の位置との相関 - その2 発生時刻 -

Correlation between the position of the moon and the quake beneath the Metropolitan area in the past 400 years -2 The time-

# 末 芳樹 [1]

# Yoshiki Sue[1]

[1] なし

[1] none

### 1. はじめに

1855年の安政江戸地震(M6.9)から150年を経過し首都圏での直下型地震の再来が懸念されている。そこでこの地域の地震発生傾向を月の位置である月太陽黄経差に対して調べ、偏りが見られる事を同題目 - その1 相関 - で報告した。月の位置は太陰暦によると日にほぼ等しい故、これは発生日に偏りがある事を意味する。続けて本報では発生時刻について報告する。

### 2. 検討結果

M5.5以上の地震には月太陽黄経差に従った発生傾向があるが、以下に発生グループ毎の発生時刻の検討を行う。

\* 新月付近の月太陽黄経差  $350 - 40^\circ$  は、最多発生期間である。被害を生じる可能性のあるM6.0以上の地震は、9 - 15時及び22 - 6時、即ち、昼間あるいは夜間に発生している。月が天頂あるいは天底にある時刻 $\pm 1.5$ 時間以内の発生が多い

\* 満月付近の同  $160 - 210^\circ$  は発生が多い。M6.0以上の地震は、10 - 17時、0 - 3時および6時頃に発生している。月が天頂あるいは天底にある時刻 $\pm 1.5$ 時間以内いくつか発生している。

\* 下弦付近の同  $280 - 310^\circ$  は発生が多い。M6.0以上の地震は、0時前後、8時前後、13時前後および18時頃に発生している。月が天頂あるいは天底にある時刻 $\pm 1.5$ 時間以内いくつか発生している。

\* 上記に加え、上弦付近の同  $90 - 110^\circ$  及び満月と下弦の中間付近の  $240 - 250^\circ$  でも発生数は少ないものの、発生時刻に月の位置との関係が想定される。

以上のように、各グループの発生時刻には、それぞれ特有の偏りが見られる。これは月の位置と関係することが多く、地球潮汐との関係を示唆すると思われる。(Tanaka et al., 2004)

### 参考文献

Tanaka S., Ohtake M., and Sato H., 2004, Tidal triggering of earthquakes in Japan related to the regional tectonic stress, Earth Planets Space, Vol.56, No.5, 511-515.